



醍醐寺の阿弥陀信仰

3月20日(水) - 5月15日(水)

企画展

皇室と醍醐寺

4月27日(土) - 5月15日(水)



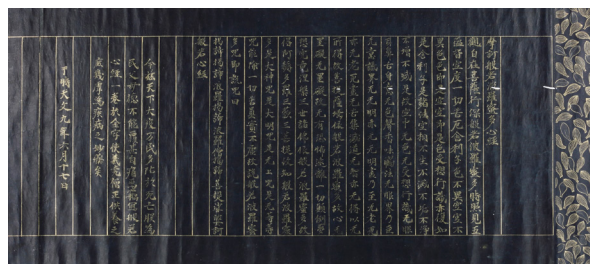
阿弥陀来迎図(鎌倉時代)

醍醐寺における阿弥陀信仰は、この寺を開かれた聖宝理源大師から始まります。聖宝様は、弘法大師の弟子である真雅僧正から最初に「無量寿法」(阿弥陀様の拝み方)を受けられました。その後、聖宝様は阿弥陀如来を一心に拝まれたと伝わっています。聖宝様の後も、阿弥陀信仰は醍醐寺内で受け継がれ、数多くの仏像、仏画が制作されました。これらの作品は醍醐寺の歴史だけでなく、阿弥陀信仰の広がりを知る上でも欠かすことのできない重要な文化財となっています。

特に昨年の秋に初めて公開した、名佛師快慶の手になる可能性も考えられ、平成最後の発見と注目をあつめた「水晶宝龕入り阿弥陀如来立像」(鎌倉時代)は、造られた当時の目的は定かではありませんが、ロマンを秘める極めて貴重な仏像です。ほかにも、阿弥陀如来が亡くなられた方を迎えるため、極楽浄土からこの世に現れる光景を描いた「阿弥陀来迎図」(鎌倉時代)、法然上人の伝記で大正6年に発見され、醍醐本と通称される「法然上人伝記」(国宝・江戸時代)、寛文4年から明治時代まで上醍醐東谷阿弥陀堂に安置されていた「木造阿弥陀如来坐像」(重文・平安時代)など、醍醐寺に伝承される阿弥陀信仰を物語る文化財を紹介します。

また、企画展「皇室と醍醐寺」では、一昨年秋に皇太子殿下御行幸の際に研究された「後奈良天皇宸筆・紺紙金泥般若心経」(重文・室町時代)をはじめ、皇室と醍醐寺の関係を示す貴重な史料を一挙公開します。

桜の花とともに千年の祈りの一端を、ぜひご覧ください。



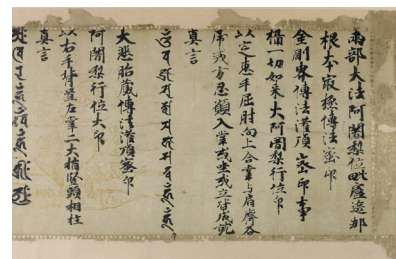
後奈良天皇宸筆・紺紙金泥般若心経(重文・室町時代)



水晶宝龕入り阿弥陀如来立像(鎌倉時代)



倭花名品 三熊露香筆(江戸時代)



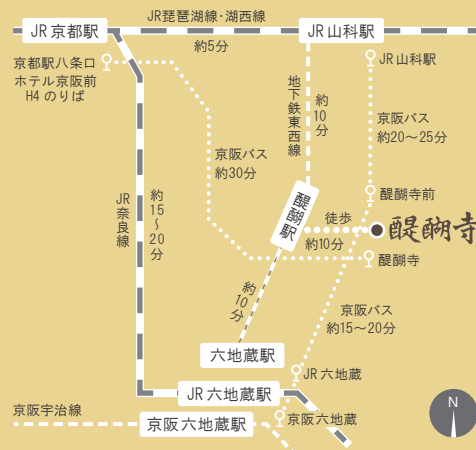
後醍醐天皇宸筆・天長印信(国宝・南北朝時代)

【拝観料】(三宝院・伽藍の拝観含む) ※季節により変動あり
大人1,500(1,300)円、中高生1,000(800)円
※()内は20名以上の団体料金 ※小学生以下無料

【拝観時間】午前9時～午後5時
※発券終了は閉門1時間前(入館終了は閉門30分前)
※休館日なし。ただし、4月18、19、25、26日は平成館のみ閉館。
その他、行事等の都合により変更の可能性あり。

【交通案内】

- ・市営地下鉄東西線「醍醐駅」下車 ②番出口より徒歩約10分
- ・京阪バス22・22A系統「醍醐寺前」下車すぐ
- ・京阪バス山科急行線「醍醐寺」下車すぐ



総本山醍醐寺

〒601-1325 京都市伏見区醍醐東大路町22
Tel. 075-571-0002 <https://www.daigoji.or.jp/>